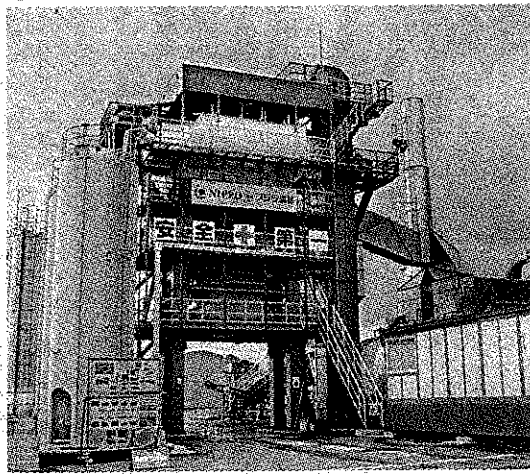


NIPPO

国内最大の中温化混合物施工

第二東名 スギ3.6万本分CO₂削減



中温化混合物を製造する仮設プラント

NIPPOは、製造時の温度を下げることで二酸化炭素(CO₂)の大幅な排出削減が期待できる「中温化アスファルト混合物」を大量に使用した舗装工事を、第二東名高速道路で展開中だ。中日本高速道路会社が発注している「沼津舗装工事」(静岡県富士市・沼津市、御殿場市)で、同社はCO₂排出削減を

目的とした中温化混合物の施工では国内最大規模となる15万6000トンの沼津サービシエリア(仮称)の敷地を利用して設置した仮設プラント。現場に近い御殿場合材工場で製造した袋詰めの中温化剤を持ち込み、混合物1ト当たり2.4kgの割合で投入。中温化剤の効果で、通常は155度の高温で混合するところを25度低い130度で製造でき、CO₂排出量

を13%削減できるといわれる。仮設プラントではさらに、国立公園が近接する周辺環境に配慮し、製造燃料を通常用いるA重油から硫黄酸化物(SO_x)の出ない灯油に変更した。工事に伴い発生するCO₂を、中温化混合物15万6000トンの製造によって358.7ト、製造燃料の灯油への切り替えによって155.6ト削減する計画。削減量は一般家庭100世帯から1年間に排出されるCO₂の量にも匹敵する。

5月後半から製造を始めた中温化混合物は、現段階で計画の1割程度の1万5000トを出荷済み。今後本格化する製造・出荷に備え、仮設プラントに中温化剤の自動投入装置を取り付け、これまで作業員が手作業で行っていた袋詰め製品のプラントへの投入を効率的に行えるようにした。中温化混合物については、日本道路建設業協会(道建協、林田紀久男会長)は、「低炭素アスファルト舗装」として発注者に利用を促す要望活動を9年度から行っている。こうした成果で国土交通省の地方整備局の一部が試験利用を始めている。

NIPPOの今回の取り組みは、CO₂の排出量削減を狙った国内初の本格的な事例となり、今後の普及拡大に向けた起爆剤となると期待されている。

日刊建設工業新聞
平成22年6月21日掲載